日下部小学校

「確かな学力」を育てる学習活動の研究

～言語活動を取り入れ，「考える力」を高める学習指導の工夫～

Ⅰ　研究の内容

1　研究仮説

意図した言語活動を取り入れ「考える力」を高める学習指導の工夫をすれば，思考力・表現力・判断力が高まり「確かな学力」が育まれるだろう。

2　研究の具体的内容

①「言語活動」をどのようにとらえるのか共通理解を深め，授業の中に教師が意図した言語活動を設定し，その言語活動が児童の思考力にどのように作用するか検証する。

②言語活動の基礎となる国語の力を授業の中でつけていく。

③論理的思考力を更に育む手だてとして，「読み取って考える力」に焦点を当てる。「叙述に即して読む」「読み取ったことをもとに考える」「自分の考えをもつ」という一連の学習活動が充実するように，学習指導を工夫する。読み取りや，考えの深まりは，表現することによって初めて形となるため，「書く活動」と連動させ，理解と表現の一体化を図っていく。

3　研究方法

（１）児童の実態調査や指導法の工夫など理論研究や実践研究

（２）授業研究（研究の成果を実証するために，３回の検証授業を行なう）

（３）「１人１実践」の公開授業

（４）特別支援教育の学習会

（５）今日的教育課題関連の学習会（外国語活動）

Ⅱ　成果と課題

1　成　果

・「意図した言語活動を仕組む」ということが研究の成果につながった。教師がねらいをもって授業に臨むことで児童が考える姿がみられた。

・授業の導入の場面で前時の学習を児童の言葉で再現させること，自力解決の場面でヒントカード等を使って個人差に対応してどの児童にもしっかりと考えを持たせること，集団解決の場面では，ホワイトボード等にグループごとの考えを整理すること等，授業の構成の際に思考を促す言語活動を設定することで，考えが深まっていくことが明らかになった。

・児童の表現方法に工夫がみられ，語彙が増えたことから言葉を選ぶことができるようにな

ってきた。
・どの研究授業も「考える力」をキーワードに教材研究がなさた。
・それぞれの教科において，様々な言語活動が取り入れられ，子どもたちの「考える力」が高まった。
・児童が疑問や自分なりの考えを持ちながら授業に参加するようになり，うわべだけの知識でなく，理由や筋道を持って考えることができるようになった。
・一実践が研究テーマと一貫性を持たせることにより，研究との整合性がとれた。

2　課　題
・考える力や確かな学力が身に付いている児童もいるが，まだ個人差はあり難しい児童もいる。
・考えがなかなか深まらない児童への支援の方法を考えていく。
・仮説の具体化により，児童がどのような状況になれば高まったと言えるのかという見取りの方法を明確にする。例えば，全児童に自己評価カードを持たせ，各ブロックで見取りたい児童の変容を児童の言葉や定期的な振り返りの中で把握していくと，より児童の実感に即した成果や課題の見取りができる。

Ⅲ　成果物

1　全体／部会研究授業指導案（ワークシート等も含む）

（1）低学年部会
　1年　算数　「かたちあそび」　向山　潤　教諭

（2）中学年部会
　3年　算数　「□を使った式に表わそう」　渡邊　彩教諭

（3）高学年部会
　5年　算数　「比べ方を考えよう（2）」　廣瀬　剛教諭

（4）特別支援部会
　「ゲーム屋さんだよ　いらっしゃい！！」
　岡　京子教諭
　相澤　京子教諭

2　授業公開指導案（一人一実践）

・全教員が授業案に意図した言語活動を位置づけ実践交流した。

（研究主任　岡　村　太　郎）